緑ネット通信 No.78

緑のネットワーク・まつど
代　　表：藤田　隆
年 会 費：1000 円
口座番号：00170-9-696174
連 絡 先：高橋盛男 090- 2935- 9444

都市の緑を残すためには、緑を見守り育む人のネットワークが不可欠です。私たちの活動の目的は、みどり特に樹林の保護･保全を願う人やグループと連携しその輪を広げ，豊かな生態系を保つ森を次世代に伝えることです。

松戸のみどり再発見ツアー報告

「戸定邸　庭園復元工事を振り返る」

藤田　隆

飛び石にも隠された秘密が

アオギリの隙間から皇居を望む

１０月１日のツアーは復元工事にかかわった島村さんにご案内いただいた。同行したみどりと花の課職員さんも当時担当していたので、貴重なお話を聞くことができた。

復元工事では作庭当初の姿に戻すことがテーマだったが、何を証拠としたのか。徳川昭武の趣味であり、たくさん残っている写真、そのほかの古い写真から建設当時の姿を復元したとのことだった。

戸定邸の玄関両脇にはヒヨクヒバが玄関を包み込むような形で植わっているのは、客人や主人を歓迎する意味があったのかもしれないとの説明だった。徳川昭武の木へのこだわりはほかにも表れていた。

当時の庭園の植栽には古写真で見る限りコウヤマキが並んでいた。松戸市内からコウヤマキを募ったりして復元に努めた。徳川家康が眠る日光東照宮墓所や久能山東照宮唐門にはいずれもコウヤマキがあった。島村さんの話では、コウヤマキへのこだわりは徳川家へのリスペクトではないか、ということだった。

江戸川を望む大広間からはアオギリが不規則に五本並んでいる。ガラス窓を通してアオギリに遮られずに富士山が眺められる独特の植え方だった。中国の故事によるとアオギリには想像上の鳥、鳳凰が棲む唯一の樹木。高貴な樹木とされている。皇居のある方角・東京方面を眺める角度にアオギリを植えたのは、まるで鳳凰に包まれるイメージがあったのかもしれない。

庭園の先には東屋があり、桜の季節には徳川昭武が花見を楽しんだことが想像できた。古写真では４本の柱が皮をはいだ原木柱だったが、木場で探して入手できたのは２本だけ、やむなく残りは普通の柱での復元となった。

参加者からは「復元工事の大変さが伝わってきた」、「通勤しか使わなかった松戸駅近くに素敵な緑あふれる公園があった。緑に癒された」、「季節を変えて来てみたい」などと印象を話してくれた。

拝見！ となりの里山活動【流山市編その1】

緑のネットワーク・まつど　高橋　盛男

松戸の近隣市の市民ボランティアによる里山活動（樹林地の保全活動）を訪ねるシリーズ。今回から２回に分けて流山市を取り上げます。

表情豊か、うらやましい谷津の森

流山おおたかの森駅から歩いて20分ほど。「大畔（おおぐろ）の森」は、丘陵に細く切れ込んだ谷津の森です。面積は約1.5ヘクタール。スギを主とする山林は、一部は農地としても利用されていたもので、地権者の寄付により現在は市有地となっています。

この大畔の森を拠点に活動しているのは「里山ボランティア流山」（通称：里ボ）の皆さんです。同団体は、2010年に開講された里山ボランティア養成講座の修了生により、翌2011年に設立されました。

流山市の里山活動と同団体の来歴については次回に送るとして、今回は魅力的な大畔の森とそこでの活動風景を紹介しましょう。

南東の入口から入り、谷筋の園路を行くと、右手に橋が渡された池があります。その左手には水の湧く湿地があり、その奥には草地や復元した田んぼがあります。さらに丘に登ると畑と果樹園までがあるのです。

樹林、池、沢、湧水、湿地、草地、竹林、田んぼ、畑、果樹園と、実に多様な環境を有する緑地。小さな谷津ですが、里山と呼ぶにふさわしいこのような森は、松戸にはありませんから、松戸の森仲間たちが訪れたら、おそらく誰もがうらやむことでしょう。

作業とその他の活動の打ち合わせ

森の中央部にある湧き水の沢（湿地）

大畔の森は、一般に公開されている「散策ゾーン」と、非公開の「里山保全ゾーン」に分かれています。面積比は2：1くらいでしょうか。田や畑、果樹園などのある里山保全ゾーンは、里ボの活動日以外には人が立ち入れませんが、イベントや小学生の体験授業などに活用されています。

若い子育てファミリーが大活躍

里ボの活動日は、毎月第2・第4日曜日の9時から12時。大畔の森のほか「西初石小鳥の森」（市の借り上げ地・公開）と「伊藤家の森」（民有地・活動日以外非公開）の2カ所もフィールドとしています。

訪れたのは10月2日。森の奥に道具小屋とテーブル椅子を備えたスペースがあり、9時に集まった会員たちが、その日の活動の打ち合わせをします。目立つのは、子どもを連れた若い夫婦。この団体の事務局長、岡本千穂さんも２児のママさん。6人いる事務局員は、すべて40歳前後だと言います。

「珍しいとよく言われます」と岡本さん。いえいえ、珍しいどころじゃありません。驚嘆に値します。

活動日はいつも作業とお楽しみの抱き合わせ。この日の作業は、草刈り、橋の清掃、アオキの抜採、小鳥の森の園路のロープ張り。お楽しみは竹工作。掃除係の子どもたちの後について池の橋へ。森に子どもたちがいる光景は、心が浮き立ちます。

今田夫妻の3歳ボーイは、1歳からこの森に来ています。夫妻は登山が趣味ですが「子どもができてなか

掃除の合間も、水辺をのぞき込む子どもたちは皆、生き物が大好き(左)／この日のお楽しみでつくった竹のカタツムリ(上)

なか登山に行けなくて、身近に子どもと一緒に自然と触れ合える場所を探していた」のが入会のきっかけ。妻の玲奈さんは活動を続けるうちに「生き物と人が共生するには、適度に自然に手を入れることが大切と知り、ただの自然好きから『それを維持するための行動は？』と考えるようになりました」と言います。

岡本姉妹の姉は「草むしりが大好き」な中1ガール。小4の妹と熱心に橋の掃き掃除をしています。両親は、夫の純平さんが4年前に入会。妻の千穂さんは「下の子が幼かったので遅れて入会」したものの、そもそもが「田舎育ちで里山風景が大好きだったので、活動を始めたら夫以上にのめり込んで」、やがて事務局長を務めることになったのだそうです。

63名の会員のうち、18名は子どもで親子が12組。若手が「年配の方々に教えてもらいながらやっている」と言えば、年配組は「自分たちの世代では思いつかないことを考え出す」と若手を称賛。世代を超えて、森が人をつないでいる印象を受けます。

大畔の森が公園となり、散策ゾーンが公開されたのは今年度から。森の維持管理は市との協定から業務委託へと切り替わりました。それにともない年間の事業計画づくりや作業報告など、従来になかった業務が加わりました。また、代表の生方さんは「今は親子の入会希望に応えきれていない」と言います。若い世代の会員が増えるのは喜ばしいことのようですが、そこにも何かしらの課題があるようです。それらについては、流山市における里山活動のおいたちも含めて次回、報告することにしましょう。

異色ずくめで20年！
里やまボランティア入門講座

緑ネット　高橋　盛男

11月17日、5日間にわたる里やまボランティア入門講座（以下、里やま講座）を終えました。今年の受講生15名が20期の修了生となります。彼らの今後は今のところ未定ですが、皆がとても意欲的に、そして楽しそうに受講していたのがとても印象的でした。

2003年に第１回が開講された里やま講座。その発端は、第２期松戸市緑推進委員会の樹林地部会による提案でした。同委員会の調査・研究の一環として、市の共催を得て試行され、その修了生により「松戸里やま応援団」（現・一起の会）が誕生しました。

２年目から講座は、委員会から樹林地保全団体と市民活動の中間支援組織、行政による３者協働運営へと移されました。発案者の渋谷孝子さんと立ち上げにかかわりながら、この講座が20年も続くとは予想もしませんでした。何しろ異例ずくめでしたから。

委員会生まれ、３者協働の運営体制、「松戸の緑を知る」「森仲間をつくる」「教える・習うより、一緒に考える講座に」というコンセプトと、それに基づくワークショップ型の構成を持つオリジナルプログラム、いずれもほかにあまり例がありません。

各期の修了生のほとんどが団体を立ち上げて活動に入ったことも稀有ならば、それらがネットワークを形成して互いに助け合いながら活動していることも、松戸の里山活動の大きな特色となっています。それはもとより、里やま応援団各会の功績といえます。

みんなでつくってきた松戸の里やま講座。これからも素敵な森仲間が増えていくことを期待します。

芋の作の森で、自慢のヤマユリの話を聞く

秋の　松戸の里やま　こんな活動ありました

・ロープワーク講習会 4 回
・**関さんの森**に保育園 2 園、小学校 2 校、大学 3 校が訪問
・**野中の森**で伐倒講習を兼ねて枯損木の枝切除 4 回(①)
・**野うさぎの森**で樹人の会の活動報告会
・ナラ枯れ枯死木の現地調査 2 日間
・入門講座 19 期生が**トークの会**を設立
・**里やまボランティア入門講座**実施

①

②

③

④

⑤

⑥

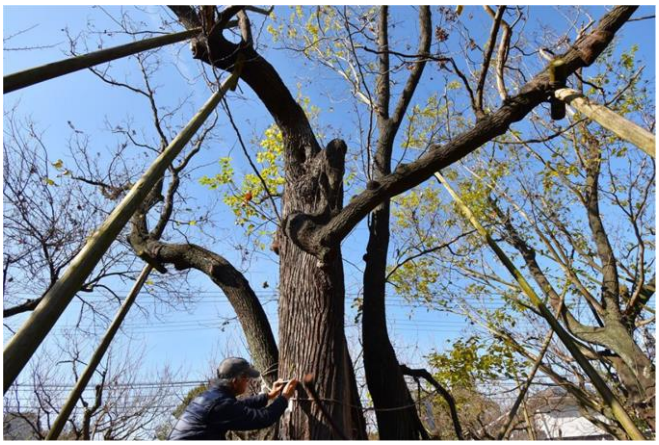
・**みなみの森**で安全講習会
・**子どもっとまつど**主催**秋山の森**で「竹の工作教室」(②)10/16、**野うさぎの森**で「クリスマスリースづくり」
・**囲いやまの森**で「森で楽しむ音楽会」(③)10/22
・21 世紀の森と広場での「松戸モリヒロフェスタ」11/6 に**里やま応援団**として参加（竹工作、バッタ作り教室、竹叩きあそび、竹ポックリあそび、森の木落ち葉アート、パネル展示など）(④)
・**カンスケ緑地**で竹垣つくり 11/9, 30
・**石みやの森**に保育園児が来森(⑤) 11/10, 17, 24
・**七喜の会**で安全講習会
・**囲いやまの森**で「あそびの森」総勢約 200 人 11/13(⑥)
・**森の利活用部会**によるスワッグ講習会 11/22
・**基金のチッパー**での作業 4 つの森で延べ 6 回実施

～しぜんのコラム 53～

関さんの森のケンポナシ

関さんの森の老木ケンポナシは、樹齢約 200 年。晩秋に熟す実は小枝(果梗)ごと落下し、梨に似た味でおいしい。可食部は「果実」ではなく、肥厚した「果柄」。戦争中、地域のこどもたちは、秋になるとケンポナシの実を拾っておやつとして食べたという。

老木ケンポナシは、2012 年に道路建設の関係で移植することになった。2 年かけて念入りに根回しをおこない、根鉢を大きめにとって「立曳き工法」で移動させるなど、できる限り木に負担をかけない方法で移植した。しかし、移植後数年は、梢端が枯死するなど、樹勢の衰退が認められる。枯枝切除、発根促進剤希釈液の潅水、竪穴式土壌改良など、懸命の処置によって、その後、樹勢は徐々に回復していった。



↑樹齢 200 年超のケンポナシ　2022.11.22　関さんの森
ケンポナシの実は小枝ごと落ち、枝に引っかかっていることも多い↓

そして、移植後 10 年たった今年は、ケンポナシの実は大豊作。また、老木ケンポナシの枯死に備え、種子を取り蒔きして育てた若木も、今年になって初開花・初結実。ケンポナシの木は、道路脇の梅林の一画にあるので、是非味わってみてください。

(山田純稔)

★松戸のみどり再発見ツアー（観察学習会No.60）　★新型コロナウィルス関連で中止になる場合がございます。事前にご確認ください。

「歴史あるみどりをつないで初詣・七福神と富士山も」

緑のネットワーク・まつどが主催する松戸のみどり再発見ツアーは、みどりの新たな魅力を発見する試みです。小金北部に残された緑と冬木立のなか、社寺をめぐるコースを歩き、身近なみどりについて考えます。

１ 月 11 日（水） 9:30～12:30 （雨天中止） 参加費 300 円（会員は 100 円）
集合　JR 北小金駅改札口　9:30　**持ち物**　飲み物、帽子、マスク、手指消毒品
申込み・問合せ： 090-4078-3703（藤田 1 月 4 日から受付開始 18 時以降）**※申込制・先着３０名**
その他　歩きやすい服装でどうぞ